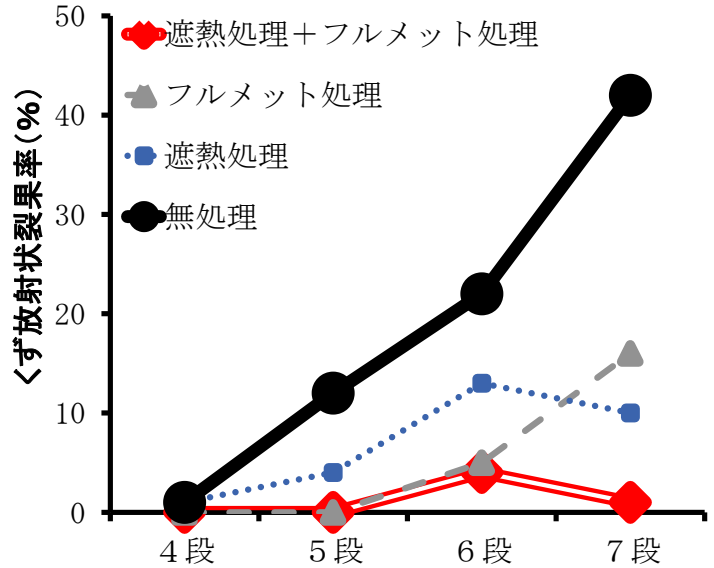


トマトを裂果から守る技術を開発！



放射状裂果が発生したトマト



4～7段果房における遮熱処理とフルメット処理による裂果軽減効果

開発のねらい

県中北部を産地とする夏秋雨除けトマトでは近年の温暖化の影響で、8月下旬～9月中旬に果実が放射状にひび割れる放射状裂果が多発し収量、品質の低下が問題となっているため、その多発要因を明らかにし、対策技術を開発しました。

新技術の概要

- ▶ 放射状裂果は、開花期～幼果期のハウス内平均気温が26℃を超えると多発の危険性が高まります。
- ▶ 遮熱資材（レディヒート）を梅雨明けから9月上旬までハウス天ビニールに塗布する遮熱処理、及び「フルメット液剤」を幼果期に散布するフルメット処理は総収量を減らさずに放射状裂果を軽減することができます。
- ▶ 遮熱処理とフルメット処理を併用すると放射状裂果の多発条件下において軽減効果がより高まります。

活用場面

本技術は県下27.5haで栽培される夏秋雨除けトマト全体に適用できます。さらに、裂果の低減により販売額が増加し、農家所得の向上につながります。